



日本基督教団ロコス教会で今年初
めてのコンサートを開催いたし
ました。なぜ「新年度始めで」で
なく、この教会に空調設備が
ないことは、これは少々
憐れなことです。あ、
困ったことではあります。自然環境
の中で音楽を演奏（会場）と前向きに考えて
います。

春
高柳生
盛田麻央
フェスティバル

風

35 回目の今回は夢空間

Music が

致会

夢空間 La Musica (ラムシカ)とは
夢空間 La Musica は身近なところで生の音楽を聴く機会をたくさん作りたい。サロンコンサートは霧囲気を味わえる空間を提供したい。聴くだけに留まらず、これから羽ばたこうとしている若い音楽家や経験豊かな田熟した音楽家との交流も楽しめるコンサートを實現したい。これらの思いを形にしたのが夢空間 La Musica です。
音楽家たちと二人三脚で八王子に音楽の森を創出しようとい々と日々を歩んでいます。

夢空間 La Musica (ラムシカ)とは

チャイコフスキー 子どものアルバム

ひばりの歌

39
22

プログラムのには載っていない、高田絢子さんからのプレゼント曲でした。春の膨らんんだ空気で、ひばりが空をハイスピードで下しなごう。えずる様が軽やかで描かれて、ました。ロゴス教会に隣接する磯沼牧場の放牧場ほか、この地域では30年以上前には春の使者として雲雀が空高く舞う姿が見られました。短い曲ですが、懐かしい光景がたくさん目の前に浮かびました。

オペラ「ファイガロの結婚」より

手組の二重唱

伯爵夫人 高柳
圭！と侍女ス
ザンナ 盛田麻
央が浮気性な
伯爵を懲らしめ
るワナⅡ手紙を
書くシーンです。
伯爵夫人がスザ
ンナに手紙を書
く指導をする場
面は観客を多、



三人が楽曲について話す際も、説明するとうより、語りかける、お客様もうんうんとうなづきながら耳を傾ける。そんな柔らかな空気を通い合いました。いつものことですが、今回も舞台と客席に境がない教会が会場であることが功を奏していました。

前半、日欧の歌曲をピアノが紡ぎ出す春風に乗って、テノール、ソプラノが咲き誇る花の情景、出会いの喜び、恐れや不安を描き出しました。

後半、オペラアリアは狭い舞台ながらも演技も入れて、コミカルな二重唱、そして日本人なら感情移入せずこはいられない二重唱、歌曲では興味深い聴き比べも組み込まれました。



唱にしませました。盛田麻央さんが演
 唱しながら、実際に必死になってカ
 カナで伯爵夫人の口述を書き取って
 る姿に笑みが会場から送られていま
 した。ご自身でおっしゃってみたい
 途中、訳がわからなくなっていたう
 づけです。伊達眼鏡をかけた伯爵夫
 人に変身した高柳圭三さんは、借り
 が老眼鏡！でした。頭がくらくらの
 つも、そのようなことはみじくも感
 させず、おすましの伯爵夫人をし
 かに演じていました。

「シ」 ヌトラウス二世 春の声

待ちこがれた明るい春がやって来た喜びを華やかに、はつと歌い上げる盛田麻央さんと共に、春風に乗りウィーンの晩餐会に入り込んだ気分を味わいました。



「マ」 ラヴァーズイ ロマンツァ

ポップスとクラシックが融合したような1曲、アンドレア・ボチェッリの歌で知られています。遺される自分と先立つ彼女（ひと）、人生に対する深い愛と別離の思いを込めた折りの歌です。高柳圭さんのこの歌詞と一体化した演唱には、どうしようもない哀切が深く、深く刻み込まれていました。お客様からは「気持ちが高揚して、彼らしさが感じられました」という感想が寄せられました。



「中」 田直／別宮貞夫 さくら横丁

同じ歌詞で春の日本歌曲といえ、必ず取り上げられると思われる曲です。この曲はどちらの作品もソプラノ歌手が歌うことが多いかと思われ、ですが、今回中田直氏作曲「さくら横丁」を盛田麻央さん、別宮貞夫氏作曲「さくら横丁」を高柳圭さんで披露されました。会場ではどちらか一方が好きという方、両方とも好きという方それぞれでした。

中喜直氏の曲はどちらかと言えばセンチメンタルの対して、別宮貞雄の方は抑制の効いた表現の隅々からさながらに、別宮貞夫氏作曲「さくら横丁」は男声によく合うとも思いました。

「オ」 ペレッタ つばめより ドレッタの夢

高柳圭さんの曲紹介に、なんと疑問を呈された森田麻央さん。二人のもつた糸を綺麗に曲内容を伝えました。この曲は国立音楽大学同窓生であり、コンピを組むことも多いこの三人のチームワークの良さが聴く者にも爽やかな風となつて伝わりました。

「オ」 ペラ蝶々夫人より 魅惑に満ちた瞳の娘よ

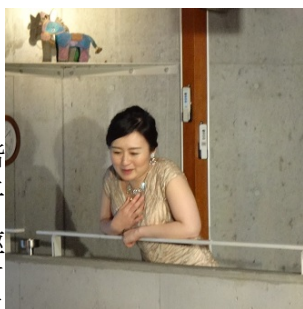
オペラ「蝶々夫人」の中でも唯一幸せん時間を描いたアリアです。15歳の蝶々夫人（森田麻央）とピンカートン（高柳圭）の愛の二重唱です。蝶々夫人が現す恥ずかしさと愛する・愛されることへの戸惑いには日本人ならではの仕草が美しく、



なりました。蝶々夫人」の中、たたり曲アリアを聴いただけで、全部体を鑑賞したような満足感を味わいました。

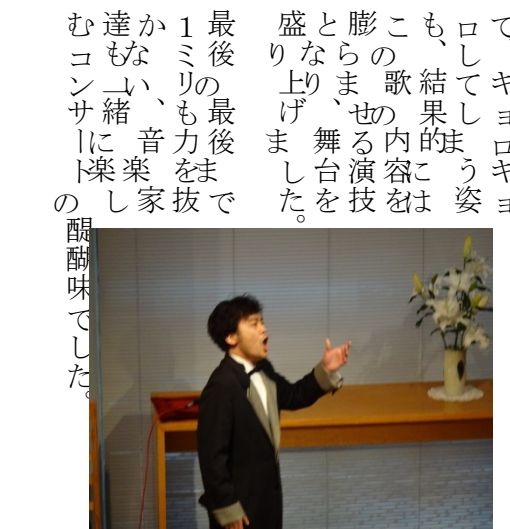
「ア」 ンコール ガルスタドン 禁じられた音楽

ログス教会の作を生かして、階上から下をみて歌う森田麻央さん。舞台上で上を見上げて歌う高柳圭さんはこの歌詞、バル



「コニーを挟んで交わされる愛の歌」ピタリな場面設定でした。

さいきまの機転に会場には声にならない喝采のこぼれがありました。高柳圭さんは登場した時、打合せの状況が掴めず、盛田麻央さんを探しで、キョロキョロしてしまふ姿も、結果的にこの歌の内容を膨らませる演技とらま、舞台を盛り上げました。



「團伊玖摩 花の町」お客様と一緒に歌いました。お客様全員が大きな口をあげて心の底から歌っている様子が舞台からもよくわかり、とてもよい時間だったというのが出演者三人の感想でした。



今後の予定

6月10日（土）

チェロとピアノの対話 VOL. IV

8月6日（木）

シヤズライブ・ヴィ・マエストロ 詳細はHP等で順次案内いたします。

発行者

夢空間

La Musica 岡部真弓

電話：060-91-0911

E-MAIL: info@yumekukan.net

ホームページ

http://www.yumekukan.net/